

## 編 集 後 記

佐々木幹事長逝去の衝撃が、お屠蘇気分を吹き飛ばし、お通夜、お葬儀と続く痛恨の次に来たものは、「この先、翔友会の舵は誰が取るの？翔友の発刊は誰がするんだ？」という絶望にも似た空虚感と、同時に、「私達は余りにも佐々木さんに頼り過ぎ、面倒事をすべて押しつけていたんだ」という悔恨の思いだった。幹事会、OB 総会と続く会合の中で、誰の思いも一緒だったようで、若手幹事達が力強く「何とかしなければ」と結束し、7号までを編集された、牧野先輩の「俺が手伝うから、翔友10号をやってみろ」との有り難いお言葉に安心して、とりかかった矢先に襲った阪神大震災。被災地域在住の翔友20数名の安否確認にかけり切りとなった数日間、牧野先輩の御自宅、小野会長の御実家共に全壊、その他御両親死亡、半壊、等々続々と判明する被害のすさまじさに衝撃の第2波。全く天を恨んだ。

二重のショックから少し気を取り直した2月14日、第1回の編集会議を開き、震災前に牧野先輩が示して下さっていた編集方針を骨子に、多少の肉付けをして内容を決め、原稿依頼を翔友各位にお願いをした。

何せ、ソロには早い練習生が、何かの間違いで、大空に飛び出してしまったも同然の有り様で、何をどうしたら良いものやらさっぱり判らぬ編集子達が、ただただ、全翔友が楽しみにしているんだということを心の支えにして、どうにか作り上げた翔友10号をお届けすることが出来てホッとしている。

今後、暫くは私達6名が編集にあたります。回を重ねれば段々とうまくなるとは思いますが、会員諸賢のお叱りや、助言を励みに頑張りたいと思いますので、どんな内容でもけっこうです。原稿、秘蔵写真、取り上げたい企画等を是非編集委員にお寄せ下さい。特に来年は60周年記念号を企画し、50周年以降の部の歴史を記録しておきたいと考えています。

不慣れとは云え、発行が遅れたこと、また原稿の依頼や、編集内容について不備、不行届や紙面の都合上、折角の原稿・写真を一部割愛せざるを得なかった失礼は全て編集長の責任である。

本誌を謹んで、亡き佐々木前幹事長の御霊に捧げる。

平成7年6月30日

編集委員長	窪田 昌三
委員	加藤 寛
〃	大久保雅史
〃	野崎 純一
〃	北林 英之
〃	松岡 慎二

---

翔友 X 〈非売品〉

平成7年7月31日 発行

編 集 翔 友 会

発 行 同志社大学体育会航空部

印 刷 河北印刷株式会社

京都市南区唐橋門脇町28番地

---